複数施設研究用

スペクトラムスコアを用いた定量的抗菌薬適正使用評価指標と薬剤耐性菌発現との関連性の検討

１．研究の対象

2016 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日において、高知大学医学部附属病院および昭和医科大学病院に入院後 48 時間以降に CD トキシン抗原検査を実施した方

２．研究目的・方法

研究目的：

一般的に、抗菌薬が微生物に対して有する活性の広さは、広域や狭域といったスペクトラムで表現されます。多数の微生物に活性を有する広域と呼ばれる抗菌薬は、耐性菌を選択する危険性が高いことから適正使用が求められておりますが、現行の使用量を評価する指標では本当に適正使用が出来ているかの評価が困難です。近年、広域あるいは狭域の抗菌薬使用の変化を可視化できる指標として days of antibiotic spectrum coverage（DASC）というスペクトラムスコア（活性の広さを示す点数）が注目されております。しかし、医療機関におけるそのスコアの変化がもたらす臨床的な意義は明らかとなっておらず、臨床応用に至っておりません。そこで本研究では、耐性菌として *Clostridioides difficile*（CD）に着目し、2016 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日に高知大学医学部附属病院および昭和医科大学病院の入院患者さんで CD トキシン抗原検査を実施した方を対象に個別の DASC と CD 感染症の発生との関係を明らかにすることを目的としています。

研究期間：

倫理委員会承認年月日～2026 年 3 月 31 日まで

利用または提供を開始する予定日：

2025 年 8 月 1 日～

３．研究に用いる情報の種類

情報：年齢、身長、体重、病歴、薬歴、血液検査値等

４．外部への情報の提供

この研究で得られた情報は、昭和医科大学病院から高知大学医学部附属病院へ提供されます。また、高知大学医学部附属病院から昭和医科大学へは情報の提供を行いません。

５．研究組織

研究代表者　　高知大学医学部附属病院　薬剤部　浜田幸宏

研究責任者　　昭和医科大学　薬学部　前田真之

６．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。
また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

「住所」〒142-8555　東京都品川区旗の台 1-5-8　　「電話番号」03-3784-8594

「担当者の所属・氏名」昭和医科大学　薬学部　臨床薬学講座　感染制御薬学部門　前田真之